

# 令和6年度 J A 共済の運用益の使途について

令和6年1月

# JA共済の運用益事業について（令和6年度）

令和6年度計画額

合計額：1,067,066千円（86,252千円減（▲7.5%））

## <主な変更点>

（単位：千円）

### 拡 充

自動車事故防止対策

内容	金額	前年度増減
生徒向け自転車交通安全教室の実施 ○全国各地で、中高生を対象とした交通事故の実演により自転車事故の危険性を学ぶ交通安全教室を開催する。	239,750	27,750 (13.0%)
歩行者向け交通安全啓発活動の実施 ○薄暮時間帯・夜間の歩行中事故削減に向けた啓発活動を実施し、反射材の着用促進を図る。	60,000	30,000 (100%)

（単位：千円）

### 減 額

救急医療体制の整備

自動車事故被害者対策

自動車事故防止対策

内容	金額	前年度増減
救急医療機器等購入費補助	345,000	▲ 5,000 (▲1.4%)
交通事故無料法律相談事業・機関の支援	67,335	▲ 17,863 (▲20.9%)
幼児向け交通安全教室の実施	0	▲ 116,500 (▲100%)

## <予算の推移>

（単位：百万円）

令和4年度	令和5年度 (a)	令和6年度【案】 (b)	増減額 (b-a)	増減率 (%)
1,226	1,153	1,067	▲86	▲7.5

## 自賠責共済運用益拠出事業（詳細）

（単位：千円）

### 1. 自動車事故防止対策

事業の内容(令和6年度(案))	【 】内は事業主体	令和4年度 計画額	令和4年度 実績額	令和5年度 計画額 (a)	令和6年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 全国一斉交通安全運動の協賛 全国のJA等で交通安全運動期間中に同運動ポスターを掲示し、交通事故防止を図る。【内閣府他】		1,000	827	1,000	1,000	0	0.0%
(2) シートベルト・チャイルドシート着用推進運動の協賛 シートベルト・チャイルドシート着用促進の広報活動等により交通事故防止を図る。 【シートベルト・チャイルドシート着用推進協議会】		1,000	1,000	1,000	1,000	0	0.0%
(3) 自動車点検整備推進運動の協賛 自動車点検整備推進運動に協賛し、交通事故の防止を図る。【自動車点検整備推進協議会】		500	500	500	500	0	0.0%
(4) 交通安全スローガン・ポスター募集事業への協賛 交通安全スローガンおよび当該スローガンを使用したポスターの募集を行い、優秀作品を活用した啓発活動を実施し交通事故の防止を図る。【毎日新聞社・(一財)全日本交通安全協会】		2,750	2,750	2,750	2,750	0	0.0%
(5) 全日本交通安全協会の支援 交通安全に関する広報活動、交通安全表彰、交通安全教育の推進等を実施する(一財)全日本交通安全協会を支援し、交通事故の防止を図る。【(一財)全日本交通安全協会】		2,000	2,000	2,000	2,000	0	0.0%
(6) 反射材を活用した交通安全啓発活動の実施 夜間の交通事故防止に効果的な反射材の普及促進を図るため、反射材フェアに協賛する。【(一財)全日本交通安全協会（後援予定：警察庁）】		6,500	6,500	6,500	6,500	0	0.0%
(7) 幼児向け交通安全教室の実施 全国各地で、幼稚園・保育園とその保護者を対象とした交通安全教室を開催し、交通事故の未然防止を図る。【JA・JA共済連（後援予定：内閣府、警察庁、国土交通省他）】		116,500	60,649	116,500	0	▲ 116,500	▲100.0%
(8) 生徒向け自転車交通安全教室の実施 全国各地で、中高生を対象とした交通事故の実演（スタントマン）により自転車事故の危険性を学ぶ交通安全教室を開催し、交通事故の未然防止を図る。【JA共済連・各都道府県警察本部】		212,005	209,221	212,000	239,750	27,750	13.1%
(9) シルバー世代向け交通安全教室の実施 高齢者を対象とした交通安全講話や敏捷性測定等の交通安全教室を開催し、交通事故の未然防止を図る。【JA・JA共済連】		96,000	30,788	88,000	88,000	0	0.0%
(10) シルバー世代向け自動車安全運転診断の実施 高齢者を対象とした交通事故未然防止に向けた自動車安全運転診断等により、交通安全意識の向上促進を図る。【JA・JA共済連】		87,500	72,709	87,500	83,200	▲ 4,300	▲4.9%
(11) 交通安全啓発活動の浸透・定着に向けた取組み 関係団体・行政（警察庁・PTA協議会等）に対し、JA共済が制作した交通事故防止対策コンテンツについて一元的にまとめた情報発信を定期的の実施し、効果的な展開・活用促進を図る。【JA・JA共済連】		—	—	10,000	10,000	0	—
(12) 歩行者向け交通安全啓発活動の実施 薄暮時間帯・夜間の歩行中事故削減に向けた啓発活動を実施し、反射材の着用促進を図る。【JA・JA共済連】		—	—	30,000	60,000	30,000	100.0%
(13) ASV（先進安全自動車）普及促進に向けた広報啓発活動 高齢者を中心に、ASV（先進安全自動車）の普及促進に向けた広報・啓発活動を行う。【JA共済連他】		30,000	29,999	—	—	—	—
(14) 自転車ヘルメット着用の必要性訴求のための啓発資材作成 自動車と自転車の衝突実験動画を制作し、JA共済ホームページや県警を通じた啓発活動を展開する。【JA共済連他】		40,000	39,993	—	—	—	—
小 計		595,755	456,941	557,750	494,700	▲ 63,050	▲11.3%

(単位：千円)

## 2. 救急医療体制の整備

事業の内容(令和6年度(案))	【 】内は事業主体	令和4年度 計画額	令和4年度 実績額	令和5年度 計画額 (a)	令和6年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 救急医療機器等購入費補助 地域の救急医療を担う厚生連病院等に対して救急医療機器等の購入費を補助し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。 全国の厚生連病院103病院のうち、95病院が救急告示を、30病院がへき地医療拠点病院指定を受けている。(令和5年3月31日現在)【厚生連病院他】		370,000	369,787	350,000	345,000	▲ 5,000	▲1.4%
(2) 救急ヘリ普及推進活動の支援 救急医療用ヘリに関する啓発・広報活動を支援し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。 【認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク】		5,500	5,500	5,500	5,500	0	0.0%
小 計		375,500	375,287	355,500	350,500	▲ 5,000	▲1.4%

(単位：千円)

## 3. 自動車事故被害者対策

事業の内容(令和6年度(案))	【 】内は事業主体	令和4年度 計画額	令和4年度 実績額	令和5年度 計画額 (a)	令和6年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 自賠責制度周知活動の実施 自賠責共済・保険の未加入車両の解消を図る自賠責制度周知活動を通じて、被害者救済を図る。 【国土交通省他】		3,000	2,890	3,000	3,000	0	0.0%
(2) 交通事故無料法律相談事業の支援 自動車事故損害賠償に関する無料法律相談事業を支援し、被害者救済を図る。 【(公財)交通事故紛争処理センター】		64,211	64,211	60,198	47,335	▲ 12,863	▲21.4%
(3) 交通事故無料法律相談機関の支援 交通事故に関する無料法律相談機関を支援し、被害者救済を図る。 【(公財)日弁連交通事故相談センター】		30,000	30,000	25,000	20,000	▲ 5,000	▲20.0%
(4) 介助犬の普及支援 身体障害者の日常生活を補助する介助犬の普及活動を支援し、被害者救済を図る。 【(社福)日本介助犬協会・NPO法人日本補助犬情報センター・JA・JA共済連】		55,800	43,808	50,050	50,050	0	0.0%
(5) 交通事故医療研究の支援 交通事故医療に関する研究を公募のうえ選定した医療研究25件に助成し、医療の進歩に寄与することを通じて被害者救済を図る。【公募】		25,000	24,850	25,000	25,000	0	0.0%
(6) (公財)交通遺児等育成基金の支援 交通遺児の生活基盤安定を目的とする(公財)交通遺児等育成基金を支援し、被害者救済を図る。 【(公財)交通遺児等育成基金】		2,620	2,300	2,620	2,781	161	6.1%
(7) (公財)交通遺児育英会の支援 交通遺児の修学を援助する(公財)交通遺児育英会を支援し、被害者救済を図る。 【(公財)交通遺児育英会】		10,000	10,000	10,000	10,000	0	0.0%
小 計		190,631	178,060	175,868	158,166	▲ 17,702	▲10.1%

4. 後遺障害認定対策

(単位：千円)

事業の内容(令和6年度(案))	【 】内は事業主体	令和4年度 計画額	令和4年度 実績額	令和5年度 計画額 (a)	令和6年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 適正な後遺障害認定に資する医療研究に対する支援の実施 交通事故医療に関する臨床的研究を対象に、研究課題を特定して公募のうえ選定した医療研究に助成し、交通事故被害者に対する適正な後遺障害認定に資する。【公募】		9,000	9,000	9,000	8,500	▲ 500	▲5.6%
小 計		9,000	9,000	9,000	8,500	▲ 500	▲5.6%

5. 医療費支払適正化対策

(単位：千円)

事業の内容(令和6年度(案))	【 】内は事業主体	令和4年度 計画額	令和4年度 実績額	令和5年度 計画額 (a)	令和6年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 医療分野研修等の実施 医療分野研修を実施し、医療費支払の適正化を図る。 【(一社)JA共済総合研究所】		55,200	48,837	55,200	55,200	0	0.0%
小 計		55,200	48,837	55,200	55,200	0	0.0%

※ 1. 自動車事故防止対策、2. 救急医療体制の整備、3. 自動車事故被害者対策、4. 後遺障害認定対策 および 5. 医療費支払適正化対策の合計金額

(単位：千円)

	令和4年度 計画額	令和4年度 実績額	令和5年度 計画額 (a)	令和6年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
合 計	1,226,086	1,068,127	1,153,318	1,067,066	▲ 86,252	▲7.5%

# 自賠責共済運用益拠出額の推移

(単位:千円)

年度 拠出項目	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度(案)		
	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)
1. 自動車事故防止対策	631,046	1,346	0.2	611,755	▲ 19,291	▲ 3.0	595,755	▲ 16,000	▲ 2.6	557,750	▲ 38,005	▲ 6.4	494,700	▲ 63,050	▲ 11.3
2. 救急医療体制の整備	395,500	▲ 20,000	▲ 4.8	395,500	0	0.0	375,500	▲ 20,000	▲ 5.1	355,500	▲ 20,000	▲ 5.3	350,500	▲ 5,000	▲ 1.4
3. 自動車事故被害者対策	193,104	1,179	0.6	182,737	▲ 10,367	▲ 5.3	190,631	7,894	4.3	175,868	▲ 14,763	▲ 7.7	158,166	▲ 17,702	▲ 10.1
4. 後遺障害認定対策	3,000	▲ 6,000	▲ 66.6	6,000	3,000	100.0	9,000	3,000	50.0	9,000	0	0.0	8,500	▲ 500	▲ 5.6
5. 医療費支払適正化対策	55,200	1,000	1.8	55,200	0	0.0	55,200	0	0.0	55,200	0	0.0	55,200	0	0.0
合計	1,277,850	▲ 22,475	▲ 1.7	1,251,192	▲ 26,658	▲ 2.0	1,226,086	▲ 25,106	▲ 2.0	1,153,318	▲ 72,768	▲ 5.9	1,067,066	▲ 86,252	▲ 7.5

(注) 拠出額は年度初期の予定額であり、実績額ではない。

## 令和4年度自賠責共済運用益拠出事業の内容

### 1. 自動車事故防止対策

事業の内容 【実績額】	実施概要	備 考
(1) 全国一斉交通安全運動の協賛 【827千円】	★ 内閣府他の全国一斉交通安全運動に協賛し、交通事故の防止を図る。 ○ 内閣府が主催する春および秋の全国交通安全運動用ポスターを購入・配布（春12,360枚、秋12,440枚）し、各JAおよび関連団体に掲示を依頼して期間中の各地域における交通安全活動に活用した。	○ 警察関係者へのヒアリングを実施
(2) シートベルト・チャイルドシート着用推進運動の協賛 【1,000千円】	★ シートベルト・チャイルドシート着用推進協議会の着用推進運動に協賛し、交通事故の防止・軽減を図る。 ○ シートベルト・チャイルドシート着用推進協議会（内閣府、文部科学省、警察庁、国土交通省および自動車関連団体等で構成、（一財）日本交通安全教育普及協会が事務局）のシートベルト・チャイルドシート着用推進運動に協賛。 ○ シートベルト・チャイルドシート着用必要性等の啓発広報活動。 ○ 適切な選定・装着促進のためのチャイルドシート指導員養成研修会の開催支援。	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(3) 自動車点検整備推進運動の協賛 【500千円】	★ 自動車点検整備推進協議会の自動車点検整備推進運動に協賛し、交通事故の防止を図る。 ○ 自動車点検整備推進運動に協賛し、9～10月の自動車点検整備推進の重点月間に点検整備の重要性の周知を図ることを目的としたポスターを掲示およびチラシ等を配布した。	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(4) 交通安全スローガン・ポスター募集事業への協賛 【2,750千円】	★ 毎日新聞社・（一財）全日本交通安全協会の交通安全スローガン・ポスター募集事業に協賛し、交通事故の防止を図る。 ○ 交通安全スローガンおよびポスターの募集事業に協賛（大賞受賞スローガンはJA共済全国一斉交通安全運動の統一スローガンとして使用）した。 ○ スローガン応募数：42,665点 ○ ポスター応募数：2,279点	○ スローガン、ポスターの大賞作品を選定する審査会に出席 ○ 活動状況についてヒアリングを実施
(5) （一財）全日本交通安全協会の支援 【2,000千円】	★ 交通安全事業を行う（一財）全日本交通安全協会を支援し、交通事故の防止を図る。 ○ 「幼児教育用教材の作成・普及」や「チャイルドシートの使用に関する広報啓発」、「新入学児童への黄色いワッペン」の配布、「高齢者に対する交通安全教育」、「自転車の交通ルール・マナーの周知」などを実施 ○ 春の全国交通安全運動、秋の全国交通安全運動を関係省庁・団体と共催。 ○ 交通安全教育の推進。	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(6) 反射材を活用した交通安全啓発活動の実施 【6,500千円】	★ 反射材フェアに協賛し、夜間の交通事故防止に効果的な反射材の普及促進を図る。 ○ （一財）全日本交通安全協会 反射材活用推進委員会が主催し、警察庁が後援する「反射材フェア」に協賛し、夜間の交通事故防止に効果的な反射材資材の普及促進を行う。	○ 活動状況についてヒアリングを実施 ○ 反射材フェアの現地視察を実施
(7) 幼児向け交通安全教室の実施 【60,649千円】	★ 幼児対象の交通安全教室を実施し、交通事故の防止を図る。 ○ 幼児向け交通安全教室（ミュージカル）は、コロナ禍でも幼稚園・保育園単位で実施可能な小規模プログラムを展開したが開催回数が計画を下回った。（23回）	○ 警察関係者へのヒアリングを実施
(8) 生徒向け自転車交通安全教室の実施 【209,221千円】	★ 交通事故未然防止に必要な知識や技能の習得の促進を図る。 ○ 危険な自転車走行に伴う交通事故の実演（スタントマン）により、生徒に危険性を疑似体験させるスケアード・ストリート教育技法による自転車交通安全教室を警察等と連携して開催した。（166回開催、63,228名参加）	○ 警察関係者へのヒアリングを実施
(9) シルバー世代向け交通安全教室の実施 【30,788千円】	★ 高齢者対象の交通安全教室を実施し、交通事故の防止を図る。 ○ 全国各地で、高齢者向けプログラム（交通安全講話、身体機能の衰えに関するDVD鑑賞や敏捷性測定等）による高齢者対象の交通安全教室を開催した。（26回開催、3,007名参加）	○ 警察関係者へのヒアリングを実施

(10) シルバー世代向け自動車安全運転診断の実施 【72,709千円】	<p>★ 高齢者を対象に自動車安全運転診断等を実施し、交通安全意識の向上促進を図る。</p> <p>○ 全国各地でドライビングシミュレーター搭載車両「きずな号」を全国に巡回・派遣させ、高齢ドライバーを対象に安全運転診断を開催した。(43回開催、800名参加)</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施
(11) ASV普及促進に向けた広報啓発活動 【29,999千円】	<p>★ 高齢者を中心に、ASV(先進安全自動車)の普及促進に向けた広報・啓発活動を行う。</p> <p>○ 実証実験等を交えてASVの正しい情報とメリットを周知する動画・冊子を作成し、HPやSNSを活用して広報・啓発を実施した。</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施
(12) 自転車ヘルメット着用の啓発資材作成 【39,993千円】	<p>★ 自動車と自転車の衝突実験動画を制作し、本会ホームページや県警を通じた啓発活動を展開する。</p> <p>○ 警察庁等と連携し、実験映像とともにヘルメット着用効果を伝える啓発動画やチラシ等を制作し、本会ホームページや「交通安全information」による啓発活動を展開した。</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施

## 2. 救急医療体制の整備

事業の内容 【実績額】	実施概要	備考
(1) 救急医療機器等購入費補助 【369,787千円】	<p>★ 地域の救急医療を担う病院に対して救急医療機器等購入費を補助し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。</p> <p>○ 40病院に対する救急医療機器購入費補助 旭川厚生病院、帯広厚生病院、札幌厚生病院、網走厚生病院、倶知安厚生病院、かつの厚生病院、能代厚生医療センター、秋田厚生医療センター、由利組合総合病院、平鹿総合病院、雄勝中央病院、高田厚生病院、県北医療センター高萩協同病院、上都賀総合病院、佐野厚生総合病院、相模原協同病院、浅間南麓こもろ医療センター、北信総合病院、上越総合病院、長岡中央総合病院、小千谷総合病院、佐渡総合病院、厚生連高岡病院、飛騨医療センター 久美愛厚生病院、岐阜・西濃医療センター 揖斐厚生病院、静岡厚生連静岡厚生病院、江南厚生病院、松阪中央総合病院、三重北医療センターいなべ総合病院、広島総合病院、尾道総合病院、周東総合病院、長門総合病院、小郡第一総合病院、阿南医療センター、屋島総合病院、滝宮総合病院、JA高知病院、大分県厚生連鶴見病院、鹿児島厚生連病院</p> <p>主な機器は、超音波診断装置・内視鏡などであり、検査時間の短縮、診断精度の向上等、有効に活用されていることを事務局で確認している。</p> <p>○ 3病院に対するリハビリ機器購入費補助 鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院、みどり診療所、福岡整形外科病院</p>	○ 購入機器の写真等を添付した報告書を受領
(2) 救急ヘリ普及推進活動の支援 【5,500千円】	<p>★ 認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワークの救急医療用ヘリに関する啓発・広報活動費用を支援し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。</p> <p>○ 救急医療用ヘリの有効性と必要性を広く広報するための広報誌「HEM-Netグラフ」等を発行。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施



3. 自動車事故被害者対策

事業の内容 【実績額】	実施概要	備 考
(1) 自賠責制度周知活動の実施 【2,890千円】	<p>★ 自賠責共済・自賠責保険の未加入車両の解消を図る自賠責制度周知活動を実施し、被害者救済に役立てる。</p> <p>○ 全国のJA等で秋の全国一斉交通安全運動期間を中心に、国土交通省作成のリーフレット（約145万部）・ポスター（約10万枚）を配布・掲示。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(2) 交通事故無料法律相談事業の支援 【64,211千円】	<p>★ （公財）交通事故紛争処理センターの自動車事故損害賠償に関する無料法律相談事業を支援し、紛争解決を図る。</p> <p>○ JA共済加入車両の相談等は308件（前年度：362件）であり、前年度より取扱件数は減少となった。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(3) 交通事故無料法律相談機関の支援 【30,000千円】	<p>★ 交通事故法律相談を行う（公財）日弁連交通事故相談センターを支援し、紛争解決を図る。</p> <p>○ 令和4年度のJA共済に加入している車両の交通事故に関する示談斡旋は、申込受理件数84件（前年度118件）、斡旋延回数165回（同210回）であり、審査は、申込受理件数4件（前年度12件）、審査回数7回（同30回）であった。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(4) 介助犬の普及支援 【43,808千円】	<p>★ 身体障害者の日常生活を補助する介助犬の普及を支援し、被害者救済に役立てる。</p> <p>○ 特定NPO法人日本補助犬情報センター（旧、介助犬アカデミー）の活動状況 身体障害者補助犬育成補助事業など介助犬・補助犬に関する調査研究・講演等、介助犬・補助犬に関する啓発活動</p> <p>○ （社福）日本介助犬協会の活動状況 介助犬の育成・提供、介助犬の認知度向上のための講演会・イベント開催、介助犬利用者・希望者の相談</p> <p>○ 介助犬の認知度向上を図るための、デモンストレーション・ポスター等による広報活動。（後援：厚生労働省）</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(5) 交通事故医療研究の支援 【24,850千円】	<p>★ 交通事故医療の研究にかかる研究費の一部助成。</p> <p>○ 高齢重症外傷における嚥下筋群障害の解析および嚥下筋電気刺激による早期リハビリテーションを用いた前向き無作為化比較試験 高橋 雄治（日立総合病院 救急集中治療科）</p> <p>○ 大腿筋群のパノラミック解析を用いた重症外傷患者の筋実質障害と筋肉量評価の開発 池知 大輔（日立総合病院 救急集中治療科）</p> <p>○ 病院前救護で小児外傷患者に適用できる緊急度判定ツールの開発 問田 千晶（東京大学医学部附属病院 災害医療マネジメント部）</p> <p>○ AI機械学習でつくる頭部外傷の個別化医療のための新しい重症度指標 松尾 和哉（神戸赤十字病院/兵庫県災害医療センター 脳神経外科）</p> <p>○ 外傷性末梢神経障害の革新的定量方法の開発 遠藤 健（北海道大学病院 整形外科）</p> <p>○ 器械的排痰補助装置を用いた頸髄損傷症例の呼吸機能の検討 松本 匡洋（横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター）</p> <p>○ Wideband analysisを用いた外傷性てんかん危険性診断法の確立 稲次 基希（東京医科歯科大学 脳神経外科）</p> <p>○ 人工関節全置換術後の自動車運転への復帰時期の目安 岡澤 和哉（九州大学病院 リハビリテーション部）</p> <p>○ 人工知能を用いた外傷患者の客観的な痛みモニタリングシステムの確立 廣瀬 智也（大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター）</p> <p>○ 頸髄損傷患者におけるCentral Pattern Generator（CPG）に着目した頸髄硬膜外電気刺激併用リハビリテーション法の開発 北出 一季（九州大学大学院医学系学府 整形外科学分野）</p> <p>○ 人工知能を用いた股関節周囲骨折の三次元解析と治療戦略の確立 清水 智弘（北海道大学病院 整形外科）</p> <p>○ ペリオスチンに着目した新規関節拘縮予防薬の開発 井浦 広貴（九州大学 整形外科）</p> <p>○ 外傷傷病者を対象とした人工知能による搬送中の心肺停止予測モデルの開発 北野 信之介（日本体育大学大学院 保健医療学研究科 救急災害医療学専攻）</p> <p>○ 経皮的脊髄刺激装置による歩行反射中枢の賦活化とその効果の検証 片本 隆二（総合せき損センター 医用工学研究室）</p> <p>○ 交通外傷後の精神症状発症に関する因子を包括的に分析するための多施設レジストリー研究 寺山 毅郎（防衛医科大学校病院 精神科学講座）</p>	<p>○ JA共済医療研究助成審査委員会を開催し、助成対象25テーマを選定</p> <p>○ 各研究の成果については、報告書の提出を求めるとともに、学会等にも積極的に発表するよう依頼している</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 頭部外傷後てんかん発症の新たな病態解明 ―網羅的分子生体情報を用いた先進的な予防治療プロトコールの開発― 中村 洋平 (大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター)</li> <li>○ X線透視画像の3Dリコンストラクションによる骨接合術ナビゲーションシステムの開発 吉井 雄一 (東京医科大学茨城医療センター 整形外科)</li> <li>○ 糖鎖解析による脊髄損傷予後予測因子の探索 五月女 慧人 (北海道大学大学院医学院 整形外科学教室)</li> <li>○ 交通死亡事故における死亡時画像診断の有用性の検討 木林 和彦 (東京女子医科大学医学部 法医学講座法医学分野)</li> <li>○ 外傷患者CTからの人工知能 (AI) による骨折、出血の検出システムの構築 井上 嵩基 (千葉大学大学院 医学研究院 整形外科学)</li> <li>○ 四肢再接着後のヘパリン全身投与が毛細血管新生に与える影響 宮本 英明 (帝京大学医学部附属病院 整形外科学教室)</li> <li>○ 脊髄円錐部損傷の病態生理学的解明 佐々木 颯太 (総合せき損センター 整形外科)</li> <li>○ 日本外傷データベースを用いた新型コロナウイルス感染症のエピデミックが交通事故での重症外傷患者の救急医療に与える影響の解析 小島 将裕 (国立病院機構 大阪医療センター 救命救急センター)</li> <li>○ 腹部外傷による腸内細菌叢の変化と経腸栄養再開の至適タイミングについての検討 中山 賢人 (佐賀大学医学部附属病院 高度救命救急センター)</li> <li>○ 高齢者交通頭部外傷におけるTalk &amp; deterioration発症予測スコアリング作成研究 井川 房夫 (島根県立中央病院 脳神経外科)</li> </ul>	
(6) (公財)交通遺児等育成基金の支援 【2,300千円】	<p>★ 交通遺児の生活基盤安定を目的とする(公財)交通遺児育成基金を支援し、被害者救済に役立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和4年度の交通遺児の加入遺児総数は396名</li> <li>○ 自治体等の相談窓口等を通じた基金制度の紹介等。</li> </ul>	○ 拠出団体(国やJA共済連等)の拠出分担割合にもとづく
(7) (公財)交通遺児育英会の支援 【10,000千円】	<p>★ 交通遺児の教育機会均等を目的とする奨学金事業等の支援を目的とする(公財)交通遺児育英会を支援し、被害者救済に役立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和4年度の在学奨学生数は944名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動状況についてヒアリングを実施</li> <li>○ 高校奨学生と保護者のつどいの現地視察を実施</li> </ul>

#### 4. 後遺障害認定対策

事業の内容 【実績額】	実施概要	備考
(1) 適正な後遺障害認定に資する医療研究に対する支援 【9,000千円】	<p>★ 交通事故被害者に対する適正な後遺障害認定に資する医療研究に対する研究費用の一部を助成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和4年度の課題は、「外傷後の中枢神経障害における社会復帰を目指した研究」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ JA共済医療研究助成審査委員会を開催し、助成対象を選定</li> <li>○ 各研究の成果については、報告書の提出を求めるとともに、学会等にも積極的に発表するよう依頼している</li> </ul>

#### 5. 医療費支払適正化対策

事業の内容 【実績額】	実施概要	備考
(1) 医療分野研修等の実施 【48,837千円】	<p>★ 医療分野研修を実施し、医療費支払の適正化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療研究研修部で、医療費査定業務に従事する者を対象とした医療費研修会(応用コース)、医療調査研修会(整形外科コース、脳神経外科コース、フォローコース)の研修会をオンラインで実施。研修会受講者は合計958名</li> </ul>	○ 活動状況についてヒアリングを実施